

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2023年9月5日
明治大学の所属学部・研究科	国際日本(学部/ 学科/ 研究科/ 専攻等)
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2023年7月15日
明治大学卒業予定年月	2025年4月
留学先大学について	
留学先国	オーストリア
留学先大学	ザルツブルク大学 (日本語名) Paris Lodron Universitat Salzburg(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	ドイツ語、英語/ドイツ語、英語
留学期間	2022年9月～2023年7月
留学先大学で在籍した学年	3年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語): (現地言語での名称): <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 記入例:1 学期/4 月上旬～7 月下旬、 2 学期/9 月中旬～2 月上旬	1 学期:10 月～1 月 2 学期:3 月～7 月 3 学期: ～ 4 学期: ～
学生数	18000
創立年	1622

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (ユーロ)	日本円	備考
授業料	100	15000 円	
宿舍費	4200	650000 円	
食費	3000	500000 円	
図書費		円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費	200	30000 円	
現地交通費	300	50000 円	(<input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費	800	120000 円	形態:
渡航旅費	1600	250000 円	
ビザ申請費		円	
雑費	7000	1000000 円	留学中の旅費など全て含む
その他		円	
その他		円	
合計	17100	2700000 円	

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:成田	目的地:マンチェスター 経由地:アブダビ
復路 出発地:フランクフルト	目的地:羽田 経由地:ドーハ
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金:	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:エティハド 料金:900€程度 復路 航空会社:カタール 料金:800€程度 ∴合計:1600€程度	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:ゲールから) <input type="checkbox"/> その他()	

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前:Europa Kolleg、Mozart Haus) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

個室 相部屋(同居人数、前期は1、後期は0)

3)共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

Oead student housing

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

前期は同じ部屋の中で2人で過ごしていた。いくら仲の良い人でもストレスが溜まると思う。ご注意を。
後期は運よく個室(キッチン、シャワー共同)で過ごした。とても快適。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)

なし
あり(治療を受けた場所:)2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。
(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)なし
あり(問題の内容や相談した人等:)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

特にしていない。イタリアに深夜列車で訪れた際、財布の中の現金と時計を盗まれた。深夜列車(特にイタリア)は寝ないことがおすすめ。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

前期を過ごした寮のWifiが弱すぎて不便だった。大学のWifiは問題ない。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地で口座を開設しwiseで送金する。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

スナック菓子など?特に困らなかった

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学期の初めに大学の個人ページからクレジットカードで支払った。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Transdisciplinary Perspectives (Global Creative and Cultural Industries: Analytical Approaches)	
科目設置学部・研究科	Communication Studies
履修期間	22winter
単位数	5 ECTS
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	セミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 100 分が 1 回
担当教授	Absaroka Ruard
授業内容	音楽やファッションなど様々な文化を地域、歴史ごとに分けて学び研究する。また企業や社会に Creative Industries が及ぼす影響について考え、少ない人数で議論する。非常に幅広い分野。
試験・課題など	毎週なにかしらの歴史や文化について読む図書課題のようなものがある。最後は 4000 字程のレポートが課される。英語でもドイツ語でも可。
感想を自由記入	細かいかつ幅広い分野のカルチャーに興味がある人には是非おすすめする。非常に有意義な授業であった。毎週議論する Topic が変わって面白い。日本人が珍しいので色々な人に興味もたれて色々聞かれる。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Advertising Discourse-Linguistic and Multimodal Aspects	
科目設置学部・研究科	Communication Studies
履修期間	23summer
単位数	5ECTS
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	セミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 100 分が 1 回
担当教授	Stockl Hartmut
授業内容	広告業界の仕組みや広告ビジネスについて少ない人数で議論するセミナー。企業の歴史や国ごとの広告の歴史、統計を実際の数字を用いて学ぶ。
試験・課題など	毎週文献を読む、30 分間のプレゼンテーションが一人一回ある
感想を自由記入	非常に難しい科目だった。言語的にも聞いたことのないような単語が毎週のように出てくる。更に毎週相当量の文献を読み、それを議論しなければならなかった。ビジネスや広告業界に本当に興味がある人が受けるべきだと思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Gender, Diversity& Equality	
科目設置学部・研究科	Communication Studies
履修期間	23summer
単位数	3ECTS
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 100 分が 1 回
担当教授	Lefkofridi Zoe
授業内容	男女格差の問題について主にヨーロッパ各国はどのように対処しているのか、どのような視点で政治の仕組みや社会、企業を変えていくかについて統計を用いて学ぶ。
試験・課題など	期末テストのみ。
感想を自由記入	内容は概ね自分のためになったといていい。クラスの 9 割が女子学生のなか自分は男性なのでどこかアウェーに感じたが、この視点から物事を見るのも面白いと思った。日本がどれだけ男女格差への取り組みが遅いかわかる。各国で今起きている Gender や格差の問題や News について深ぼれるのでいい経験になった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to the Study of Anglophone Cultures	
科目設置学部・研究科	English and American Studies
履修期間	23summer
単位数	3ECTS
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に100分が1回
担当教授	Parker Joshua
授業内容	アングロフオンのカルチャー、歴史を学ぶ。国際的な視点で主にイギリスとアメリカはどうか産業、文化を成長させていったのかについて。
試験・課題など	期末試験
感想を自由記入	個人的にとりわけ興味のない文化だったが単位が取れそうだったので履修した。内容は知らないことが多く意外にも面白いと思う回もあった。しかし結局議論を交わす場はないので暗記に走って終わってしまう。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。
(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	留学への申し込み
留学開始年	1月～3月	留学先が決定
	4月～7月	寮、飛行機の決定
	8月～9月	渡航
	10月～12月	一学期
留学/帰国年	1月～3月	旅に出る
	4月～7月	2学期
	8月～9月	留学終了
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

ザルツブルクは非常に美しい街です。それはアルプスに囲まれ、中世を思わせてくれるような外観に加え、人も温かいと思います(個人差あり)。そして大学は比較的自由度が高く、勉学をどんどん進める人、自分の新たな興味のあることに手を出すのも十分できる場所だと思います。

自分が留学する前にたてた大きな目標は大きく2つあります。一つは絶対にチャンスを逃さないこと。これは、一年間生活する上で、道に転がっている様々なチャンスをできるだけ拾えるように準備しておこうという意味です。新たな友人と会えるチャンス、旅にいけるチャンスなど簡単に日本風に言えば「ご縁」を大事にしようということです。これを意識していたことで自分の留学の質は格段に上がりました。様々な友人と会うにつれて、他の多くを知ることはもちろん、自分は相対的及び絶対的にどのような性質、特徴を持っているのか、つまり自分自身のことも自然に知っていくことができました。ある日、現地で出会った南米出身の友人は自分にこう言いました。「日本人はパーティーに誘ってもあまりこない。お前は日本人じゃないみたい。」これは一例に過ぎませんが、多様なバックグラウンドを持った友人から自分についてこのような正直な意見を言われました。それは自分がチャンスを逃さない姿勢を持っていなかったら絶対になかったことです。

二つ目の目標は、勉強を生活に繋げ、生活を勉強に繋げることです。これは、言われてみれば当たり前のことですが、インターナショナルな場(特にヨーロッパ)で勉強すると、また違った経験ができると確信していました。違う国の大学で勉強することは、ただ言語が違うだけでなく、文化も変わります。ポップカルチャーなど、興味のある分野に楽しく取り組める科目もあれば、特にセンシティブな人権問題、社会や歴史について授業時間を2,3時間オーバーして、他の学生と先生とで夜遅くまで議論したこともありました。留学先での勉強は自分の「ご縁」の源でした。そこで真剣に議論して授業後に色々な話題を交えて話しました。特に自分の訪れたことのないアフリカや中東の国々の友人たちの話は非常に興味深い話ばかりでした。

そして自分がこの留学の一年を終えてから最も感じるのは旅の重要性です。土地柄にも恵まれ一年で11カ国訪れることができました。新しい土地に着いたとき、自分の今まであった価値観、自分の歴史、が覆されるような経験を何度もしました。それを経験として浄化するのは簡単ですが、現地の人を見て、話して、理解しようとするのが重要でした。その旅は予定をあまり計画していないことも多かったので、トラブルが常に付き纏いました。しかしそれを乗り越えて自分をアップデートする感覚がとてつもなく好きでした。それを振り返ると、留学した一年間、さらには自分の人生も旅なのだと感じます。

留学を計画をしている人には是非有意義な時間を過ごしてもらいたいです。